

APDS

(活性化PI3Kδ症候群)

10の徴候

APDS (活性化PI3Kδ症候群) は原発性免疫不全症候群のひとつであり、免疫機能が適切に機能しない疾患です。このため、APDS患者は多種多様な症状を示すため、診断が困難です。下記のリストはそこから共通する兆候を集めたものです。もし下記の兆候のうち、2つ以上に該当する場合には、APDSの可能性が考えられますので、専門医にご相談ください。

1

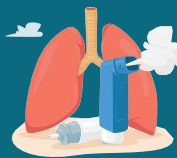
年に2回以上、下記疾患への罹患

- ・副鼻腔炎
- ・中耳炎
- ・肺炎



2

持続的な咳、コントロールが難しい喘息、気管支拡張症



3

持続的なリンパ節腫脹



4

頻繁かつ重度で4週間以上続く下痢



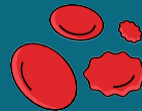
5

肝臓・脾臓の肥大



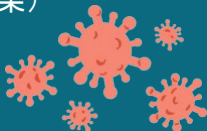
6

自己免疫性あるいは自己炎症性疾患がある（特に、幼児期での発症、複数の自己免疫症状がみられる場合）



7

頻回かつ治療困難なヘルペスウイルス感染（特に、慢性的なCMV・EBV感染）



8

発育不良（低身長など）あるいは認知機能の発達障害



9

悪性リンパ腫（本人あるいは家族歴）



10



原発性免疫不全症候群や分類不能型免疫不全症（CVID）の家族歴

本資料は、情報提供を目的として、ジェフリー・モデル基金（JMF）とPharming社の共同作業によって作成されました。情報の信頼性および正確性に努めて作成にあたりましたが、医学的アドバイス・診断・治療の指針としての位置づけにはならず、あくまでも参考情報としてご利用頂けますようお願い申し上げます。専門医へのご相談をお薦め致します。



Presented as a public service by:



Pharming



Jeffrey Modell Foundation

Curing PI Worldwide.

APDSに関する詳細については、「APDSのすべて」（上記QRコード）をご参照ください。

お問い合わせ：
medinfo.jp@pharming.com